

6～8 割の保護者がネットのコミュニケーションを心配

～考えてみましょう！親子間のスマホルール～

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所

◆ポイント◆

- ・子どものスマホ・ケータイ利用で保護者が心配することは「ネットでのコミュニケーション」。
- ・「LINE をつかっている友達とは連絡がとりやすい」と答えた中学生の割合は約 8 割。

1. 調査結果

1-1. 子どものスマホ・ケータイ利用で心配に思うこと

関東一都六県の小中学生をもつ保護者に、「子どものスマホ・ケータイ利用で心配に思うこと」を伺いました。その結果、「投稿内容で友だちとトラブル」「お子様自身の個人情報の公開」「不適切な出会い系サイト等の閲覧」「交友関係を把握できない」などのネットでのコミュニケーションを心配する親が 6～8 割となりました。いずれの項目も子どもの学年があがるにつれ心配する保護者の割合は減少していました。

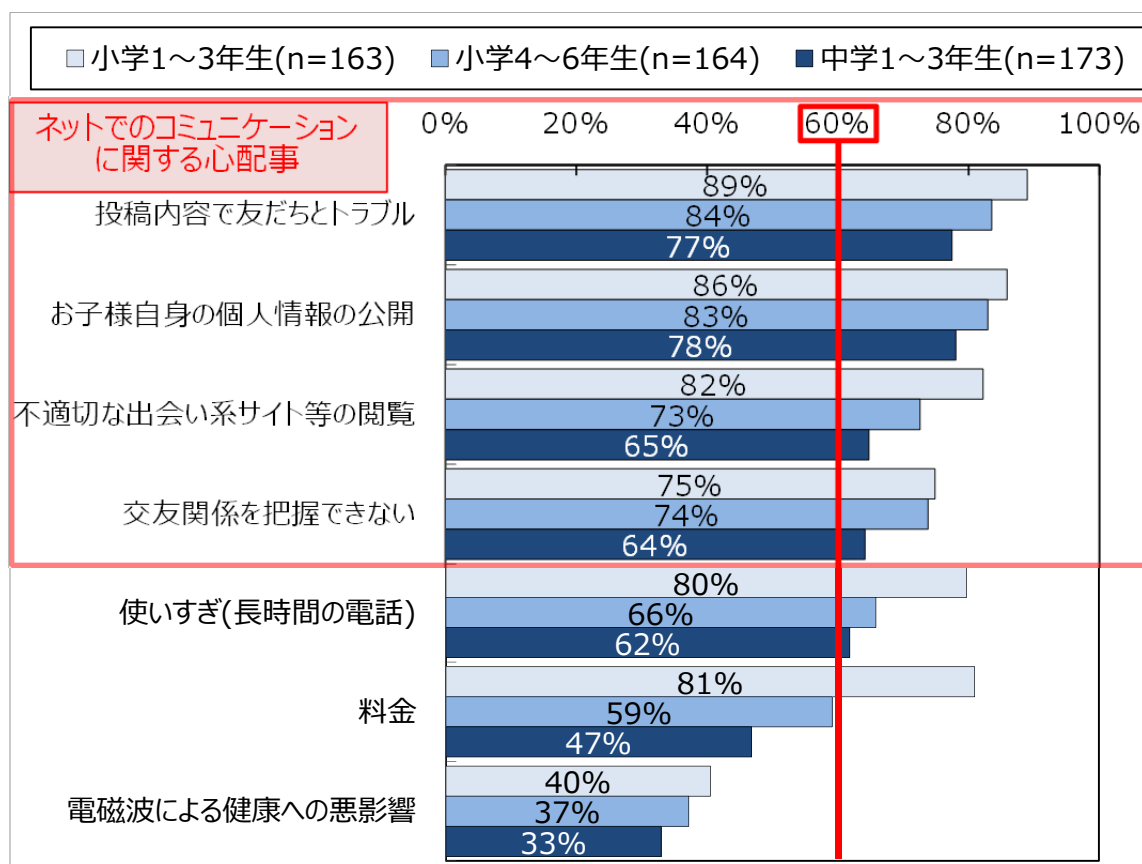


図 1. 子どものスマホ・ケータイ利用で心配に思うこと(MA・学年別)
[調査対象：関東一都六県在住の小中学生を持つ保護者]

1-2. LINE に関する意識

関東一都六県の LINE を利用している小中学生に、「LINE に関する意識」を伺いました。その結果、「LINE をつかっている友達とは連絡がとりやすい」と答えた中学生の割合は約 8 割となりました。中学生になると LINE で便利に連絡を取り合っている姿が想定されます。その一方、「友達からのメッセージをよんだら、はやく返事をかえさないといけないとおもう」「友達からの通知がとどいていないか気になる」は中学生では 1 割となりました。

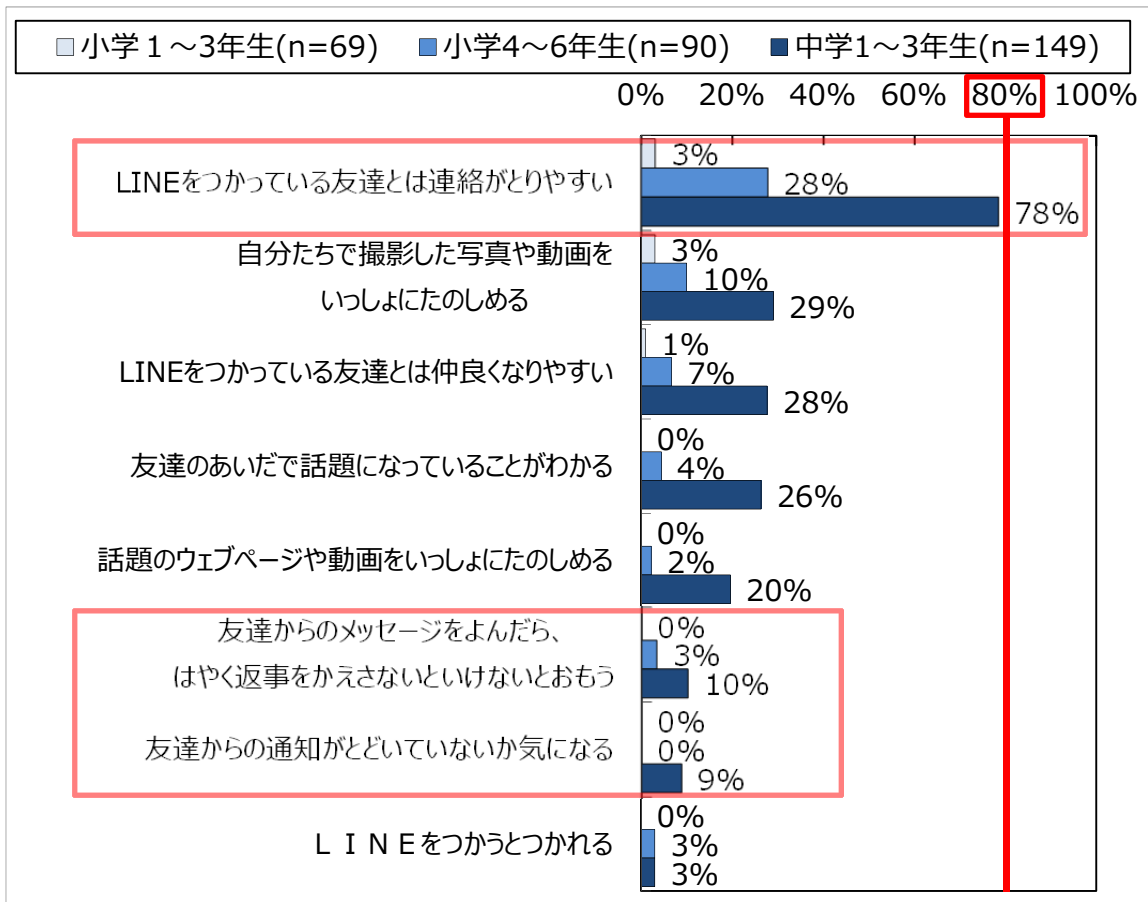


図 2. LINE に関する意識(MA・学年別)
[調査対象：関東一都六県の LINE を利用している小中学生]

前回のレポートでも「中学入学を機にスマホ利用率が約 8 割に拡大」という調査結果とともにお伝えしましたが、スマホ利用について、親が関与することにより、安全な使い方を伝えるとともに親子間のスマホルールを話し合ってみる必要があるのではないのでしょうか。

2. 調査概要

調査方法	訪問面接調査
調査対象	関東一都六県に在住する小中学生の子どもとその保護者
有効回答数	500 組
サンプリング	層化二段抽出[クォータサンプリング法(都市規模別性年代)] 都市規模別人口構成比に応じて、町丁目(50 地点)を比例配分して抽出し、抽出された町丁目において、7～9 歳、10～12 歳、13-15 歳の都市規模別性年代人口構成比に応じて個人を割り当て、該当者をランダムウォーク法で抽出
調査時期	2017 年 10 月

(参考)小中学生の方が安心・安全にスマートフォンを利用していただくためのガイドや、スマホ・ケータイ安全教室のご案内を下記の URL で公開しています。ぜひご家庭・学校でご活用下さい。

(<https://www.nttdocomo.co.jp/corporate/csr/safety/>)

■ 問い合わせ先

詳細なデータ、質問項目など、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社 NTT ドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-ml@nttdocomo.com